

I-10 改善事例（体細胞）

体細胞のトラブルを改善するために、農協職員、NOSAI、普及センターの支援を受け搾乳立会を含めて行った取り組みを紹介します。今回の事例は、改善の取り組みにより体細胞が低下し、その後、出荷乳量、体細胞数が安定的に推移している農場の事例を紹介します。

1. 農場の概況と改善までの経過

農場概況 : フリーストールでの飼養管理、搾乳は旧牛舎で入れ替え搾乳、搾乳牛頭数は80頭、2名で搾乳

改善までの経過：平成14年6月24日 搾乳立会・乳汁検査実施

・細菌検査結果：黄色ブドウ球菌 (SA：伝染性 28頭 35%)

環境性乳房炎菌 (OS,CNS,CO：環境性 29頭 36%)

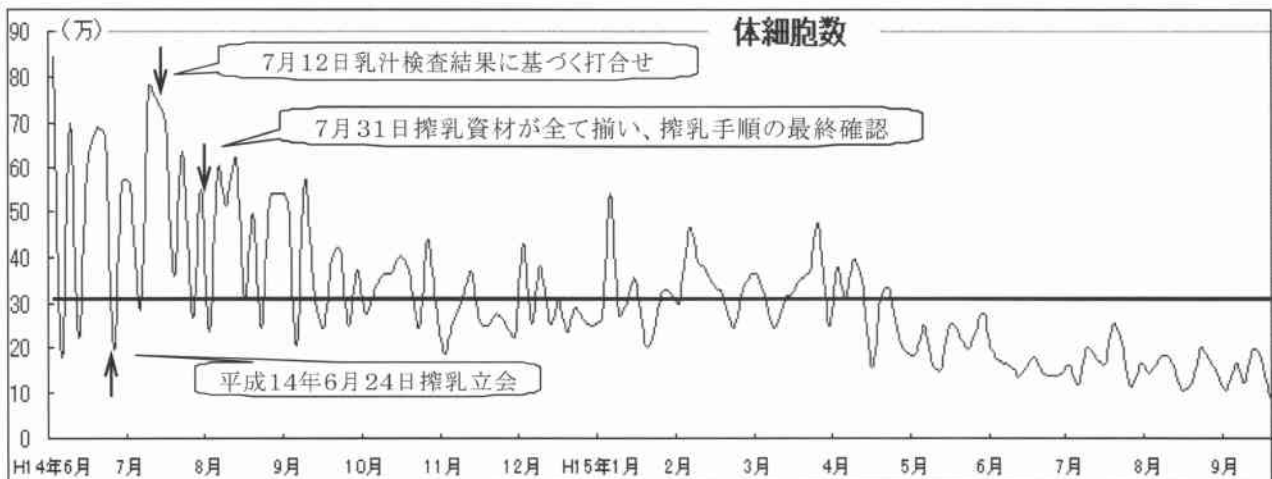
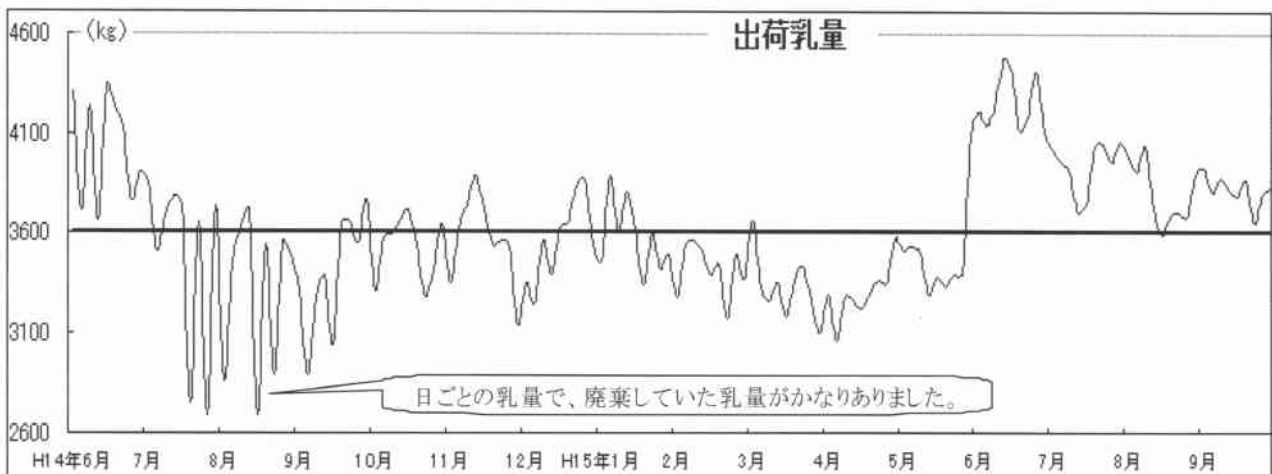
コリネバクテリウムボビス (CB：伝染性 13頭 16%)

* SAの感染が多い牛群でした。

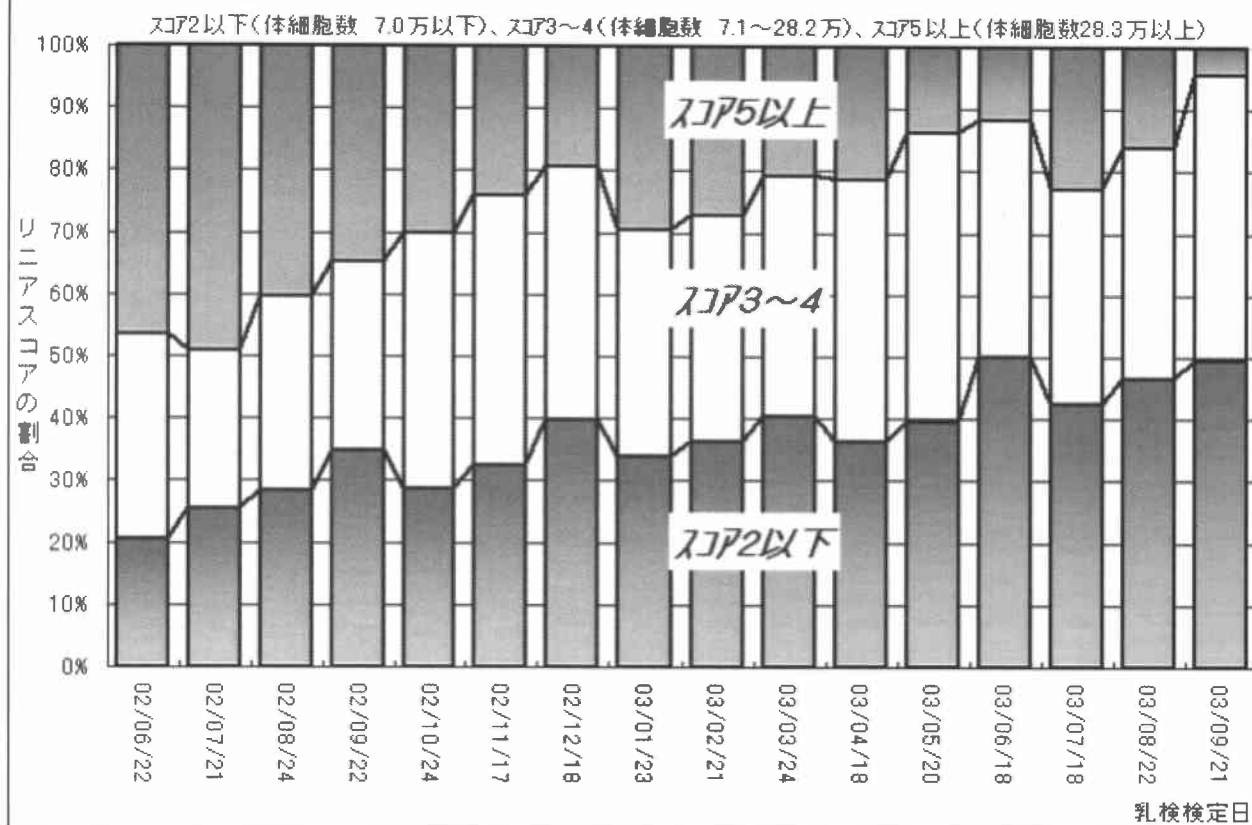
平成14年7月12日 改善内容の検討、一部治療開始

平成14年7月31日 搾乳手順を最終確認

2. 改善までの出荷乳量と体細胞数の推移



乳質改善取り組み前後のリニアスコアの推移



- ・改善前は、スコア2以下の割合が20%と少なく、スコア5以上が40%強を占めていた。
- ・改善実行中は、乳房炎治療と搾乳手法改善による新規乳房炎感染防止を同時進行させた。
- ・また、SA感染牛を特定し、隔離して搾乳を行った。
- ・改善1年後で、スコア2以下の割合は40%前後、スコア5以上は20%以下になり、バルク体細胞数も20万前後で安定するようになった。

3. 改善提案の内容

(1) 搾乳手法変更

・改善前の搾乳手順

荒拭き→1頭1布で清拭→装着→マシンストリップ→離脱→ポストデッピング
(清拭作業と装着・離脱作業が分担されて行われていた)

・改善後の搾乳手順

プレデッピング→前搾り→脱水タオル清拭→装着→離脱→ポストデッピングへと手順を変更

・手順変更に伴い特に注意した点

プレデッピングのコンタクト時間の確保 → 20~30秒

乳頭刺激を意識する → 前搾りを十分に行う

装着時間の厳守 → 前搾りから1分間

離脱タイミングを改善 → マシンストリップを最小限にする(健康牛の残乳は気にしない)

搾乳衛生改善 → 1頭1布、手袋の着用、手の消毒、デッピング容器をスプレーからノンリターンデッパーへ変更

(2) ミルカーの改善

- ・リフトロスの改善 → フロート式乳量センサーの撤去、乳房炎検知フィルターの撤去
- ・ユニットのねじれ改善 → ミルクホースをサポートするタイトナーの使用

(3) 細菌検査の所見による提案

- ・治療 → 乳検データ、産次、乳期、治療歴、細菌の種類に応じた治療指針の決定
- ・SA伝播防止 → ミルカー、人の手による伝播防止
- ・今後の分娩牛のSA検査の徹底

4. 搾乳立会を受けた農場主の方に伺いました

Q. 搾乳立会を受けようとした動機は何ですか？

A. 平成14年度 青年部の活動の中で乳質改善の一環として、搾乳立会を受けてみないかと話があったのと、乳質がかなり悪かったから。

Q. 搾乳立会を受けてどうでしたか？

A. JA・NOSAI・普及センターの提案を受け、乳房炎の予防に対し理解が深まった。結果的に良かったと思う。

Q. 搾乳立会の前・直後・現在の治療と淘汰の状況を教えてください。

A. 前は治療も淘汰もそれなりで、直後は治療もかなり多くなり、淘汰もSAを先にどんどん出していた。現在は淘汰は少なく、治療も1ヶ月に3～4頭ですんでいます。

Q. 搾乳立会前と直後で変更した点をすべて教えてください。

A. 上記の搾乳手法を変更しただけです。

Q. 苦労した事を教えてください。

A. SA (黄色ブドウ球菌) 牛の別搾りです。(打合せ後、1ヶ月間は搾乳時間が倍!?)

Q. 今後に向けて一言。

A. まずは、SA牛の撲滅です。

Q. 皆さんに向けて一言。

A. 自分一人で解決出来ない事もあると思います。搾乳立会を受けて自分が継続してやれば、何か変化があると思います。

5. 今回の改善のポイント

多くの農場で改善提案を行っていますが、手間のかかる事やお金のかかる部分の改善は省略してしまい、思うような改善が見られない事が多いものです。しかし、この農場では地道に基本的な搾乳手法を実践し、ゴールである乳房炎の予防に成功したことと思います。

体細胞数を削減するためには早期治療はもちろんですが、搾乳手法・飼養環境を改善し、新規感染させないことが最も重要です。

皆さんも、乳房炎の予防的な手法・環境の再確認をおこなうため、搾乳立会を受けてみて下さい。